みどりの食料システム緊急対策交付金のうち

グリーンな栽培体系への転換サポート

グリーンな栽培体系導入マニュアル

有機ニンニク栽培編

令和７年３月作成

さぬき有機の里グリーンプロジェクト

3月～6月

1．圃場準備

（1）土壌分析を行い、現状の化学性条件を確認する。

・緑肥（ソルゴー）を栽培するにあたり、地力が低い場合はチッソ成分で10kgと苦土、カルシュウムが低い場合はミネラル肥料を投入して、残渣がなくなるまで耕運する。

（2）5月以降に残渣がなくなった圃場に緑肥ソルゴーを播種する。

・ばら撒きの場合は3ｋｇ/10a当たり播種して浅く耕運覆土を行う。

・条撒き条間20ｃｍ×播種ピッチ5ｃｍで約1ｋｇ/10a当たり

6月～9月

2. 圃場管理及び肥料の準備

（1）ソルゴーが2mまたは出穂するとハンマーナイフ、フレールモアで高刈りを1か月/1回程度繰り返す。

＊ソルゴーをすき込むことによる緑肥効果を利用する。緑肥を施すことで土壌環境の改善、施肥量削減などの効果が期待できる。

（2）9月上旬緑肥を粉砕したのち土壌分析に基づいて肥料を投入する

にんにくは生育期間が長いので、肥大充実期に土が締まり根が弱るため下記の何れかを植え付け1か月前を目安に施用する。施肥後は丁寧に耕運して均一にする。

①完熟堆肥・・・・・4ｔ/10a＊緑肥ソルゴーを使用しない場合

②オーガニック８４３・・・・280ｋｇ/10a＊連作する場合は毎年20ｋｇずつ減肥する。

③有機石灰・・・・・100～200ｋｇ/10a（元肥）

④苦土・・・・50～100ｋｇ（元肥）

（３）元肥施用前までは畦立は行わないが、４畦に１条と本圃の周囲に排水溝を切っておく。１圃場が１０a以上あるいは畦が長くなる場合は中切も必要。

(4) 畦方向の決定は圃場条件により選択することとなるが、向きにより条間の生育差が発生するので十分考慮しなければならない。
東西畦は、まず南の条の収穫が早く、北、中の順に続く。
南北畦は、外側２条の収穫後、中が続くが差は少ない。

３．種子選別

（１）充実したリン片を厳選するために１０a当り１２５～１５０ｋｇ程度の種子を用意する。

（２）手で割った種球から充実したリン片を厳選し、サイズで別けたのち玉ねぎネット等に入れて風通しの良い日陰で保存する。

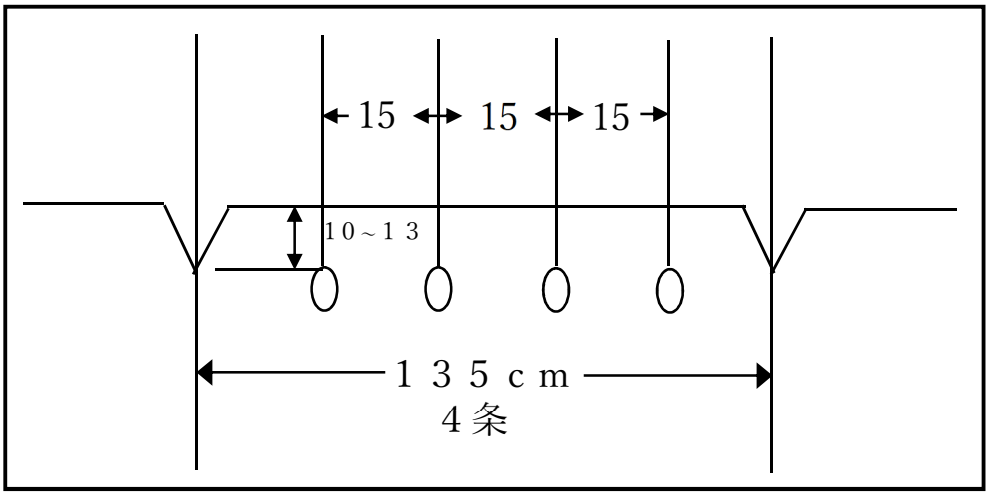
（３）発芽を揃えるため定植前日にリン片を１２時間程度水に浸漬する。

１０月

４．植付け

（１）普通栽培で１０月１日から１５日、除草シートを用いたマルチ栽培で9月２５日～１０月１０日を目安に植付ける。無理な早植えは行わない。山間部や沿岸部などの圃場条件、寒暖など気象状況により決定する。また、植付けるリン片は大きなものから用いる。

（２）４条上の場合の畝幅と条間と植え付けの深さ



（３）畦の高さ

①マルチ栽培の場合は 20～３０ｃｍの高畝を作る。移植機を使用する場合大きな鱗片は浅植えになるので栽培期間中に土寄せを行うと裂球が少なくなる。

②普通栽培の場合は畦の高さ１０～２０ｃｍとし中耕と土寄せを２～3 回行う。

（４）野菜用半自動他条移植機（ちどりさん）を使用

移植機ちどりさんを使用すると、2 名で 7.7ｈ/10a 植え付けが可能になる。手植えの場合は 2 名で 24ｈ/10a となる。

５．追肥

（１）初期成育が旺盛な場合は、量を減肥するか施用を控える。

（２）厳寒期（平均気温７℃以下が続く場合）は肥料の分解・吸収に時間を要するため、地上部の変化は少ないが、気温上昇とともに追肥の

効果は現れるので過剰施肥とならないよう注意する。

6．除草

除草シートを用いることができない場合、
月に 1 度程度除草を行う。

7．芽出し

マルチ内部突き上がってきた葉を外に出す。その際、穴を大きく開けすぎないよう注意する。

１２月～３月

8．土入れ（裂球防止）

発芽後、本葉が展開するまでに条間を中耕し土壌表面を覆う。
中耕と土寄せを 2～3 回行う（1 回/1 か月）

4 月～6 月

9．摘蕾

（1）4 月頃から中心部から花芽が上がってくるので、頂点が下を向いたぐらいのタイミングで葉の付け根から摘み取る。収穫開始から約 7～10 日で摘み取る。

（2）摘み取りから 20 日から 25 日で収穫を開始する・

10. 収穫

（1）収穫前は出来るだけ畦の上を乾かして収穫する。

（２）収穫時畦の上に広げて出来るだけ乾かす。

（３）軸を切り落とし、コンテナに入れて回収をして雨の掛からない風通しの良い場所で保管。根っこを切り落としサイズ毎にコンテナの重量10ｋｇ～15ｋｇに揃えて乾燥に出す。